
アニー先生とプラネット先生へのインタビュー記事

ポケポケパン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アニー先生とプラネット先生へのインタビュー記事

【Nコード】

N5196I

【作者名】

ポケポケパン

【あらすじ】

今回はアニー先生とプラネット先生にインタビューいたしました。

皆様、お久しぶりですポケポケパンです。

最近本当に時間が取れず、インタビュー記事が遅れて申し訳ございません。

今回はアニー先生とプラネット先生へインタビューを行わせていただきます。ありがとうございました。

それでは早速インタビューのほうへと参ります。

・先生はこの「小説家になろう」サイトをどうやって知りましたか？
アニー先生

「Googleと呼ばれる検索エンジンを利用して見つけました。」
プラネット先生

「よく通っていた掲示板である方がここのURLを貼っていて、それで知りました。」

・ポケモンのファンフィクションを書こうと思ったきっかけはなんでしたか？

アニー先生

「最初はとあるサイトで小説を書いてみたんです。……とても見ようなんて思っただけじゃない。あまりの酷さに死にますよ(笑)」
話を戻すと、妄想膨らむポケモンを、何かしらの形にして表現しようとして、ポケモン小説を始めたのです。ポケモン小説とは、一つのジャンルだと思っています。」

プラネット先生

「昔、ポケモンのファンフィクション自体は書いてたんです。まあ、

ぶつちやけ言つと初心に返るといふ感じですよ。」

・先生の年齢と出身地を教えてください。

アニー先生

「16歳、福井県という典型的な田舎に住んでいます。ちなみに、都会行くと自分が田舎者であるという現実に気付かされますw」

プラネット先生

「現役高校生です。後は田舎ですね（笑）」

・先生のポケモンのファンフィクションを執筆する以外の趣味を教えてください。

アニー先生

「ゲームとネットサーフィンですね。」

プラネット先生

「ネットサーフィンとゲームです（笑）」

・一番好きなポケモンの音楽・BGMを教えてください。

アニー先生

「音楽では、ミュウツーの逆襲のエンディングテーマ、風といっしょに好きですね。BGMは、金銀水晶HGSSのワタル、レッド戦ですね。リメイクやった時、聞いて本当に目頭熱くなりましたよ。」

「

プラネット先生

「バトルフロンティアですね。聞いているだけでテンションが高ぶるんですよ！後は歌いやすいってもありますし（え）」

・アニー先生は前作の連載を終え、続編を執筆されていますが当初から続編を書くことは決めていましたか？

アニー先生

「それは当然ながら決めていましたね。ゲームのストーリーですも

ん。二つに分けるかどうかを考えていただけです。
30万文字とか素直に長いとしか。」

・プラネット先生はいくつもの連載小説を抱えておられますが、執筆する順番は最初から決まっていたのですか？

プラネット先生

「いや、正直ポケダンシリーズ以外はその場の成り行きですね。バトルリーグ！はスランプ気味だったので脱却したかったから、ポケモンレンジャーはWEBコミックを見て、金と銀の翼に、は最新のゲームを小説化したかったという意思がありますね。」

・キャラクターを考案する時にヒントを得たもの、あるいはアイデアをもらったことはありますか？

アニー先生

「そこら中にありふれている漫画やアニメ、またはゲームを参考にしています。」

プラネット先生

「あるにはあります。ただ、忘れっぽいので元にしたのを忘れてたりするので断言できる自信もありません(汗)」

・一話を書くのに有する時間はどれくらいですか？

アニー先生

「調子が良ければ2日で完成します。酷いと一週間かかります。」

プラネット先生

「短い時は一時間、長い場合だと2、3日はぶっ通しで考えてます。内容や長さはそこまで大差ないですが(笑)」

・ポケモン小説以外でポケモングッズに関するちょっと誇示できるようなことはありますか？ あるいはポケモンに関して語れるエピソードなどありますか？

アニー先生

「大量のぬいぐるみがあること、コンビニやスーパーで販売されているフィギュアがほぼ全種類揃っていることですね。」

プラネット先生

「指に入れるサイズのフィギュアを徹底的に兄弟で集めてましたね。それを使って遊んだりもしましたし……今もあるにはあるんです。五十種類……いや百や二百種類は温存してますね（笑）」

・ポケモンそのものにはいつ、どういったように出会いましたか？

（例：幼稚園の時にテレビで、小学生の時にゲームボーイでなど）

アニー先生

「幼稚園児の時にテキストにゲームボーイで良く分からず弄ってましたね。調べる能力、台詞を読む能力が無く、オーキド研究所から出れませんでしたwww」

プラネット先生

「ゲームですね。銀バージョンから始まり、今ではかなりの作品をプレイしました。アニメはヤナギ戦辺りからじゃないと記憶がありません（笑）」

・同じポケモンファンフィクション作者として意識、あるいは刺激をもらった作者さんたちはいましたか？

アニー先生

「ふむ、現在も活動中の中で、バクフーンさんとか、Linoさんには活動初期の頃から良く小説に感心してましたね。それから様々な人が登場しました。現在、他にも様々な作者と交流をしております。しかし、感想はあまり送りません（汗）」

プラネット先生

「バクフーン先生やkaryu先生、ハープ先生にゆきすけ先生……正直挙げるとキリがありませんね。」

・執筆中に特に気をつけているものはありますか？

アニー先生

「基本的な文章作法ですかね。それと、最近では寂しくない台詞回しですね。」

ブラネット先生

「何しろ、同時連載数が多いですからキャラを記憶に留める事ですね。後は話なるべく被り過ぎないように（色んな意味で）してますね。」

・実際にポケモンの世界に行けるとしたならば、手持ちにしたい最初のポケモンはなんですか？（御三家には限りません）

アニー先生

「ピカチュウかなあ。やっぱり。サトシかわれよと思いますもんw」

ブラネット先生

「ミニリユウですね。」

初代ドラゴンってのもありますが、個人的にカイリユウが好きってのがあります（笑）」

・作品を投稿、連載していて嬉しかったことはなんですか？

アニー先生

「今までの小説活動暦の中で、最も感想を頂いたことですね。今では感想が来るのが当たり前になってますから困ります。」

ブラネット先生

「やっぱり色んな人に見てもらえる事ですね。飽きやすいタチですけど、見てもらえてるのが実感できるんで止められないんですよ。感想なんかも凄い励みになりますし。」

・思い入れの深い話とキャラクターを教えてください。（例：一番書くのに苦労した、一番楽しかった、いろいろと試行錯誤をしたが結局断念したプランなど）

アニー先生

「思い入れの深い話は……うっん、色々もあるけどジユプトルと別れる時の話ですかね。色々濃く描写したつもり……なんです。キャラクターの方はと言うと、エムコルスですかね。

ポケダンでも主人公ならイジリがいるんですよ。特にキレる様を書いて一番面白かったです。」

プラネット先生

「アルツとレツカ、この2人が一番思い入れの深いキャラですね。何かと喧嘩ばかりしている姿は自分を反映させたような感じで、いざというときの力は凄まじく……。色々な意味でこの2人は大好きです。正直、2人の喧嘩がまた見たいがために2人を出したいと思っつてもいます。」

・好きなポケモンを五つ教えてください。

アニー先生

「グレイシア、ゴウカザル、ピカチュウ、チコリータ、マニョーラですね。」

プラネット先生

「カイリユウ、バンギラス、エルレイド、ミュウツー、カビゴン
実際パーティーに組み込むとしたらカイリユウ、バンギラス、カビゴン位ですけど（笑）」

・先生にとってポケモンとはなんでしょう？

アニー先生

「神ゲー、そしてストレス解消……つまり癒やしです。」
プラネット先生

「相棒ですね。」

もう知りすぎてとことん極めたいと感じたりしてます（笑）
一生を生きる我が相棒、ってヤツです。」

・川柳

プラネット先生

「チートだろ

ミュウツィの力

もうチートw」

・読者の皆様には是非一言お願いいたします。

アニー先生

「これからも、長くなりますが、よろしくお願い致します。」

プラネット先生

「まだまだ腕は未熟ですが、これからも暖かい目で見て戴ければありがたいです。これからも応援宜しくお願いします。」

今回のインタビューはこのような形になりました。

普段ならレビューを書いているのですが、申し訳ございません。

本当に身勝手ながら、時間がなく……これからのインタビューはすべて結果のみをお送りいたします。

それでは、次回をお楽しみください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5196i/>

アニー先生とプラネット先生へのインタビュー記事

2010年10月21日20時28分発行